

2009年10月27日

残乳をなくするための搾乳技術 タイストール編

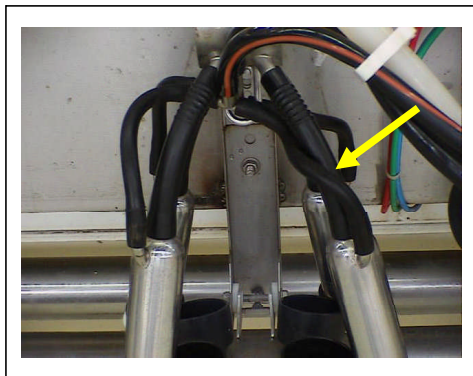
——4分房同時に外すためには——

搾乳立ち会い時や、搾乳技術の講演会でよく質問されるものに、「残乳をなくするためにはどうしたらよいのか」との質問が多く出ます。4分房同時に外す事ができないので、離脱装置は使っていないとか、残乳があると乳房炎になるから最後には手搾りで搾るとかの質問を受けます。

今回は残乳した分房をどうするのかではなく、“如何にして残乳を少なくするか”の搾乳技術の要点をまとめてみたい。

4分房同時に外すための搾乳技術で、問題となるのはキーワード「ねじれ」です。これはあまり注意（注目）されておらず、多くの「捻れ」現象が酪農家のミルクカーには存在します。これを防止する事で4分房同時に外す事のできる乳牛となります。実際には皆さん酪農家が4本同時に外せない牛を、時間を掛けて作ってきていると言っても良いでしょう。

多くのヒントはホームページ内の「クイズ1枚の写真」の中に登場しています。このクイズの答えを見るだけでも勉強になります。クイズの答えはブログ内にあり、カテゴリーでの「クイズの答え」を選択して下さい。



左の写真では、右側脈動チューブとライナーが捻れている状況を撮った写真です。これがどのように残乳につながるかが重要です。そしてこの原因は注意を払わない酪農家皆さんにあります。

また、酪農家の支援組織でもミルクカー業者でも獣医師でも、この事を重要だと発言する人は少ないのです。それはこの事実を誰も見ていないからです。

「牛を見て、牛を診る。人を見て、牛を診る」から、「牛を見て、人を診る。牛を診て、人を診る」に変化しなければいけない。

この言葉は臨床家最初の仕事である牛を診るという事からスタートして、最終的には牛の診療から人（酪農家）を診るに変化しなければいけない事を表しています。最終的には牛を管理する人を直さなければ、乳牛も常に病気に曝されている事態から脱する事はできません。獣医師と乳牛の間には、常に人（酪農家）が存在します。